

NPO法人 虹の会

“介護が必要になっても出来るだけ長く地域に住み続けたい”
 “誰もが地域でふつうに暮らし続けたい”
 こんな当たり前の願いに応えてゆく特定非営利活動法人です

特定非営利活動法人「虹の会」が、
 運営している5つの事業

「たまりんば虹」「虹の家サロン」は、地域の仲間づくりの場です
 ✓ 介護や認知症対応の場と思われがちですが、それは誤解です
 ✓ 誰でも気軽に立ち寄って、楽しみながら仲間を作れる場です

運営

宅老所
「虹の家」

介護保険
適用サービス

介護保険外の
独自サービス



地域交流室
「たまりんば虹」

認知症予防教室
「虹の家サロン」

ふれあい事業

「障害者日中一時支援事業」

「ちょっとの手助け事業」

地域支えあい活動
「新木野高齢者見守り
ネットワーク」

運営協力

地域交流施設
「ふらりえ新木野」

宅老所「虹の家」は、介護保険法が定める小規模多機能型居宅支援事業所です

所在地

〒270-1114
 千葉県 我孫子市
 新木野3-32-15

JR成田線「新木駅」北口より
 徒歩約15分。

新木団地 道崎公園のそば、
 小川のほとりにございます



会員募集中

- ◆ 営利目的の活動は一切行ってません
 - ◆ この地域で安心して暮らし続けるための支援が活動です
 - ◆ 賛同いただける方は、ぜひ会員登録をお願いします
- 正会員 年間 5,000円
 [総会での議決権あり]
 賛助会員 年間 2,000円
- ◆ 私たちと一緒に活動していただけるサポーターの方々も募集中です

理事会 メンバー (敬称略)

理事長 横山 耕太	理事 大島 まさ子
副理事長 外崎 勝康	理事 宮台 加代
理事 井川 芳数	理事 矢野 明宏
理事 井上 雅博	監事 池田 良一
理事 大川 昭子	監事 富山 素美

お問い合わせは
 こちらまで!

☎ 04-7179-3133
 FAX 04-7179-3130

パソコンから

我孫子市 虹の会

検索

Eメール

niji3215@ia1.itkeeper.ne.jp



虹の会 第57号

2019. 1. 1 発行

ニュース

編集発行 特定非営利活動法人 虹の会
〒270-1114 我孫子市新木野3-32-15
(宅老所 虹の家 内)
☎ 04 (7179) 3133
✉ nij3215@ia1.itkeeper.ne.jp

賀
新年
謹
2019

年頭のご挨拶を申し上げます

「とてもお元気ですね！おいくつですか？」私が仕事柄よくする質問です。会話の相手が認知症の方の場合もありますが、その返答にはハッとさせられることも多いです。

「（気恥ずかしそうに）もう離れたよ」

「（茶目っ気たっぷり）ヒ・ミ・ツ♡」

「（開き直って）私に聞いたってダメだよ。役所に聞いたほうが正確だよ！」

虹の会
理事長
横山耕太



年の功というのでしょうか。自分の年齢がとっさに答えられなくてもユーモアたっぷりに返してくれる様子に接し、自分も将来このようにありたいと、強く惹かれるのです。そんな私も、認知症ケアの世界を知るまでは「認知症になると何もかもわからなくなって本人も周りもお先まっくら…」という漠然とした印象を抱いていました。確かに、認知症になるとわからない事、出来ない事が増えます。しかし、それで直ちに困ることは実はそんなにはないのではないかと、今はそう考えるようになりました。

実は、上記の味ある会話を成立させるには前提条件がふたつあります。

「会話に正確さを求めない」と「失敗を認めよう」です。不正確でも皆が許してくれる。失敗しても誰かがフォローしてくれる。そんな安心感があればこそ自分の持ち味が発揮できるのではないのでしょうか。認知症の方に限らず誰も思い当たることだと思います。

「質問には正確に答えなければ…」「与えられた役割をしっかりとこなさなければ…」世の中を効率よく運営するにはこのような姿勢が大切です。でも、効率一辺倒の世の中ってどうなのでしょう。自分の年齢がわからなくても、持ち味を発揮して会話を楽しめる、そんな、非効率だけど豊かな空間をどこかに残しておかないと、息の詰まる世の中になってしまうのではないのでしょうか。

さて、認知症であろうが身体のおちこちが衰えようが、住み慣れた環境で暮らし続けたいという熱い思いから新木で生まれた虹の会は、今年16年を迎えます。これまで支えてくれた地域の方々の期待に応えるため、運営にさらに磨きをかけてまいります。今年も引き続き、皆様のご指導ご鞭撻を賜りたく思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

虹の会では、出来る限り「介護」という言葉を使わないようにしています。そのわけは…！？

私たちの立場に、上下関係はありません

辞書で「介」「護」を引くと、どちらも「助ける」「守る」といった意味があることが判ります。介護が必要な弱い立場の人を助けてあげたり守ってあげる、これが介護の仕事。確かに、そういう一面もあります。しかし、助けてあげる人と助けてもらう人という構図が固定化されてしまうと、ふたりの間に上下関係ができてしまうのです。これがエスカレートすると監視、管理、虐待へと進んでしまうのではないのでしょうか。



「困った時はお互いさま」精神のライフサポーターです

私たち虹の会では、「困った時はお互いさま」の感覚を大切にしたいと思っています。近所に住む人がなんだか困っているみたいだから、ちょっとした気遣いや手伝いをするというイメージで関わることが、対等な関係を築く上で大事だと思うのです。

それで、虹の会では職員を介護職員ではなくライフサポーターと呼ぶようになりました。ただ介護サービスを提供するだけではなく、ライフ（生活・暮らし・人生）をサポート（支援）するという立場を明確にするとともに、お世話してあげる人とお世話してもらう人という一方的な関係ではなく、お互いさまの対等な関係を築くには、ライフサポーターという名前がぴったりだと考えました。



地域の皆さんと、お互いさまの関係を広く作ってゆきます

虹の会は、この先、地域住民の皆さんとも、このお互いさまの関係を広く作ってゆくことを目標にしています。その一環として、昨年アンケートも行いました（詳細は次頁参照）。ライフサポーターが地域にもどんどん増えると、困っている人や弱っている人でも、これまで通り住み慣れた環境で暮らし続けることができます。そんなまちづくりを、地域の皆さんとともに目指してゆきたいと思っています。

取り組みに評価をいただきました！

昨年6月、明治安田生命さまの「社会貢献活動基金」より、虹の会を含む全国8つの団体にご寄付をいただきました。いただいたお気持ちは、お互いさまのまちづくりを進める上でも大きな力になります。有効に活用させていただきます。

2018年度 明治安田生命「社会貢献活動基金」
「寄付金」贈呈式



地域助け合いサポートアンケートのご報告

昨年8月、安心して暮らし続けられる地域作りに取り組むため、新木団地・あらかき野両自治会とNPO法人虹の会が共同で、利用者およびサポーターとして協力いただける方々の希望調査を、両自治会のみなさまに対し実施しました。今回は、このアンケート結果をご報告をいたします。

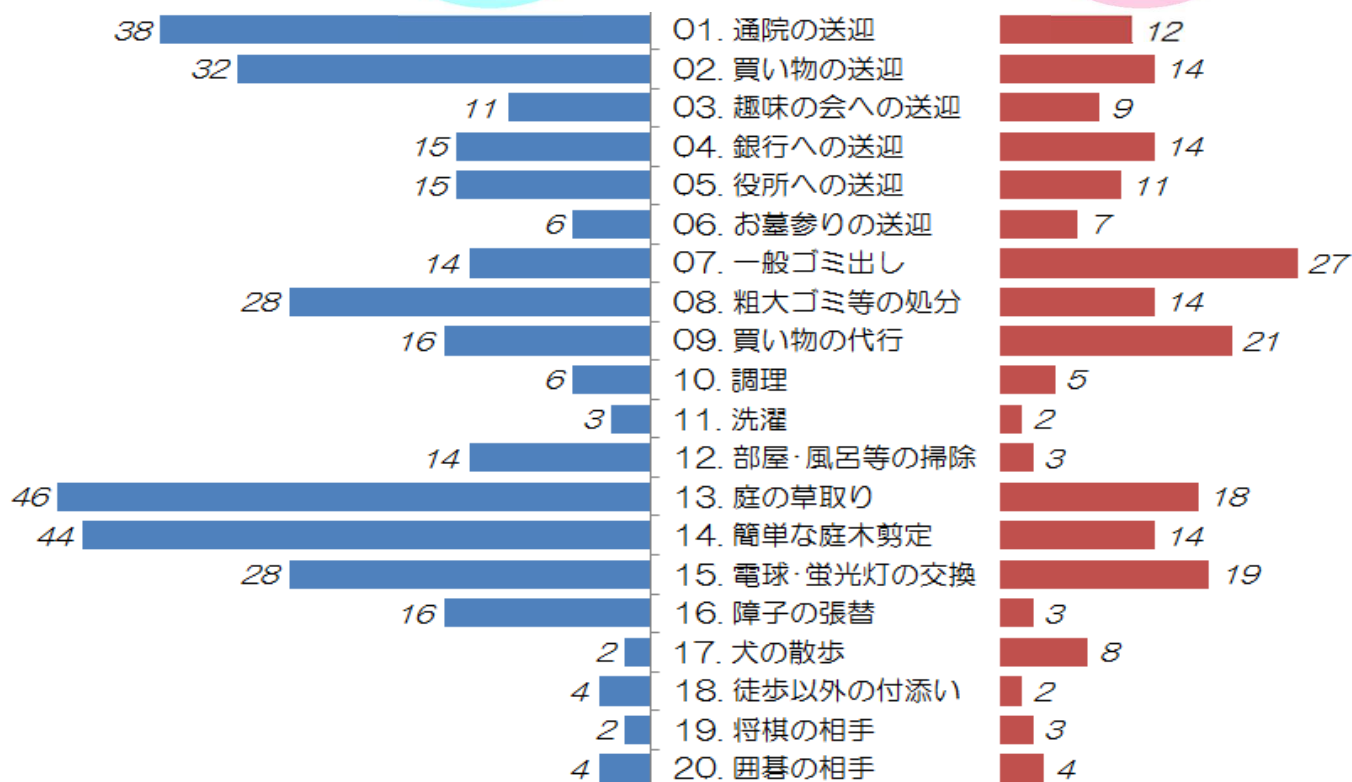
ご協力いただいた方々

- ・新木団地・あらかき野 両自治会
- ・新木野高齢者見守りネットワーク
- ・ふらりえ新木野
- ・民生委員
- ・高齢者なんでも相談室

	新木団地	あらかき野	全体
母体	685 世帯	655 世帯	1,340 世帯
回答	74人	115人	189人

利用したい
85人

協力したい
54人



[註]グラフの数値は、回答数

- 上記項目毎の回答以外にも、貴重なご意見をいただいております
- これらのご意見も踏まえ、サービス開始にむけて準備を進めます